

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念に加え、事業所としての理念を掲げて運営している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎月の全体会議にて、理念を復唱している。又、スタッフルームの見やすい位置に理念を掲示している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を定期的で開催し、地域の方へ施設理念について知って頂いている。地域行事や地域のお店、美容院にも積極的に出て行き、地域と共に暮らしていけるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族主体の家族会を立ち上げ、施設と家族との関わりを強めていく。地域の方が気軽に立ち寄ることができる取り組みを、運営推進会議や地域交流を通じて行い、当事業所を知っていただく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>施設行事の際には地域の方にも声をかけ、気軽にご参加いただいている。施設周辺の散歩や買い物の時には気持ちのよい挨拶を心がけている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の「運動会」「音楽界」などの地域の行事に参加させていただいている。地元自治会の会議参加させていただいたり、地域の方対象の認知症サポーター要請講座を行い相互交流している。</p>	<p>地域の清掃活動など幅広く活動していく。</p>

ケアセンターふれあいの里

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域包括センターと話し合いを持ちながら、認知症サポーター養成講座・公開講座など積極的に行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前年度の自己評価、外部評価を職員全員が確認できるようスタッフルームに置いている。自己評価を日常の振り返りとしてスタッフ全員にて取り組んでいる。外部評価を元に改善を行ったこともある。</p>		<p>自己評価により職員によって理解に差があることが分かった為、職員間で差がなくなるよう勉強会を定期的に行っていききたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて話し合った内容は、スタッフ会議の中で報告し、頂いた意見をサービス向上に反映している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者と把握情報等、定期的に連絡を取り合っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>生活自立支援事業を受けている方、成年後見制度を受けている方がいる為、制度について学ぶ機会を持っている。</p>		<p>スタッフ間での理解に差があるため、定期的に勉強会を行いたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議にて学ぶ機会を持っている。</p>		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

ケアセンターふれあいの里

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事の際に勤務を厚く組んでいる。 個別の関わりが必要な時間に勤務を厚くして調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的な個別面接を行い、離職を選択する前に悩みを聞き取っている。 異動者、離職者は引継ぎをしっかりと行いダメージを抑える努力をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>学習係を中心に、全職員が参加できるように施設内での研修を行っている。 施設内での勉強会だけでなく、施設外の研修会にも積極的に参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>上伊那圏域のグループホーム相互評価事業に参加し、ネットワーク作りを行っている。 又、地域の事業所合同の風船バレー大会を行い、職員間の交流の機会を作っている。</p>		他施設との相互見学の機会を作っていく。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員面接を行い、職員の悩みを聞いている。</p>		

ケアセンターふれあいの里

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己評価シートにて自己評価した項目を、基にアドバイス・評価を行っている。次の目標を共に考えることで職員の意欲に結び付けている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み前に必ず本人に施設に来ていただき、困っていること、不安なこと、求めていることを聞き取っている。その上で施設環境を見ていただき、提供されるサービスについて説明し、不安の軽減に努めている。施設来所時の情報は職員間で共有している。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み前に必ず施設に来ていただき、困っていること、不安なこと、求めていることを聞き取っている。その上で施設環境を見ていただき、提供されるサービスについて説明し、不安の軽減に努めている。施設来所時の情報は職員間で共有している。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際に当事業所でのサービスが適切でないと判断した場合他事業所を勧めている。又、グループホーム以外のサービスが適切と判断した場合も他サービスの利用を勧めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居申し込み前に必ず施設に来ていただき、困っていること、不安なこと、求めていることを聞き取っている。その上で施設環境を見ていただき、提供されるサービスについて説明し、不安の軽減に努めている。申し込みにあたっては本人が納得の上で申し込んでいただいている。</p>		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と共に楽しむ事を念頭に、支援する・されるにこだわらずに生活し、尊敬の念を忘れない。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時に家族と共に利用者に関わる時間を積極的に作り、現在の様子を補足説明している。 ご家族の意見をケアプランに反映させている。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>今までの家族とのつながりを把握した上で、より良い関係作りを支援している。 家族会にて利用者の人生を家族と共に振り返ることが出来るような作品作りを行っている。 年賀状など季節の便りを本人から家族宛へ出している。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時にそれまでの交友関係を確認し、家族以外の面会を受け入れている。</p>	<p>慣れ親しんだ職員の異動を最小に留めていく。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士が支えあう事が出来るよう席の配置を工夫している。</p>	

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も利用者の状況が聞けるような関係作りを行い、必要に応じて相談に乗っている。看取りケア終了後もアンケート等協力いただき、関係を継続している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それまでの生活スタイルを尊重しながら、ケアプランを作成している。 利用者の声を積極的に聞かせていただき、サービスに反映している。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に得た情報をフェイスシートにてスタッフが情報共有している。 それまでの生活スタイルを尊重しながら、ケアプランを作成している。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的に行っているケース検討会にて把握し、必要に応じてケアプランに反映している。		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所内・家族・関係職員とのカンファレンスで出た意見をケアプランに反映している。		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの目標期間終了時、利用者の状況に変化が見られた場合に見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護看護記録に情報を集約し、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、受診や外出の支援を柔軟に行っている。必要時は家族が宿泊できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、移動図書館の訪問や、教育機関との交流、消防団との合同防災訓練等、地域と連携を図っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて情報提供や、話し合いの機会を持ち支援している。		

ケアセンターふれあいの里

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとの連携を持ち、個別のケースの相談を行っている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>それぞれのかかりつけ医と電話連絡や、情報提供書にて連携を図っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医や協力医療機関である福島病院と連携をとり、必要時には専門医への受診を勧めている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションを業務委託契約をし、医療との連携を図っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には日常の様子を病院へ情報提供している。 入院中も病院と情報交換を行い、退院時にスムーズな受け入れが出来るよう努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所の看取り介護の方針に準じて行う。 定期受診の際には施設での様子を情報提供し、医療との連携を取りながら利用者・家族・かかりつけ医と話し合いを持っている。</p>		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・共用スペース・併設施設を行き来しながら、利用者のこだわりを重視した自由な時間の使い方をしていただいている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意思を尊重した洋服選びや、理・美容の希望を聞き取るよう努めている。訪問の理・美容の利用も可能だが、希望の店に行くことができるよう支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を持っていただきながら、利用者職員と一緒にいる。 食事は利用者職員が同じテーブルで同じものを食べ、話題提供をしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に応じて提供している。 日常的な飲酒の希望は無いが、行事等で希望された場合は提供している。		現在喫煙の希望は無いが、要望に応じて提供していきたい。(所定の場所でのみ提供)
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を使用にて排泄のパターンを把握し、個々に合わせた声かけ・誘導を行っている。		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴提供をしている。 時間帯は努力はしているが、希望の時間に必ずしも提供は出来ていない。 一人ひとりの要望を把握しながらタイミングに合わせて入浴していただいている。		希望の時間帯・希望日の入浴に出来る限り応えていきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や、その日の状態に応じて休んでいただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中に一人ひとりの役割があり、生活の張りになっている。又、希望に応じて隣接の畑での作業や、併設施設のプログラムに参加していただき楽しんでいただけるよう努めている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身での管理は難しいため施設で管理し、買い物の際や、自動販売機や公衆電話などで使っていただいている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、隣接の畑、花畑の散歩コースに出かけ、外の空気や四季を感じていただいている。		

ケアセンターふれあいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>希望に応じた場所に外出している。現在は職員体制を整え外出行事としている。</p>		<p>個別の外出計画や、家族と一緒にいることの出来る外出を計画したい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は公衆電話・施設電話にて、希望に応じて使用している。 手紙の差出、受け取りは自由に行っている。 FAXを使用するのやり取りも行っている。</p>		<p>本人から季節の便りを家族に宛てて出していきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>居室・共用スペースを自由に使っていただき、お茶等飲みながら過ごして頂いている。 夜間の面会に関しては事前に連絡を頂いている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束を行っているケースは無い。 身体拘束しないことについて、スタッフ会議等で確認している。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵はかけず、自由に行動できるよう支援している。</p>		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共有スペースの見守りやすい場所で記録業務を行っている。 夜勤者は利用者の状態に合わせて巡視を行っている。夜間鍵をかけたいという希望にも応じている。(利用者の状態・家族の思いを確認の上)		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて行っている。 薬品に関しては、目に触れない保管場所にて保管をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時、離施設対応、ノロ対応、防災等マニュアルを作成し、全職員が目を通している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故発生時等マニュアルを作成し、全職員が目を通している。 年に二度救命救急講習を実施し、全職員が一度は受講している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施している。 地域の消防団と連携して消火訓練を実施し施設の構造、利用者の状態を把握して頂いている。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時に施設で起こりうるリスクについて説明し、理解して頂いた上で契約に同意して頂いている。 日々の状況変化を本人・家族へ都度説明を行い、本人の希望と事故予防策をすり合わせている。		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>体調の変化を見逃さないよう注意深く観察するようにし、看護師・医師に報告している。体調不良時にはご家族に協力頂き、早期の病院受診を勧めている。</p> <p>変化の様子やバイタルの数値は記録に残し共有している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬を預かる場合は必ず処方箋を頂き、カルテに保管して情報共有している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>栄養士の指導にて食物を工夫している。便秘の予防として毎日テレビ体操をしたり、散歩をしたり体を動かす取り組みと、水分を多めに取っていただく取り組みを併用して行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを行い、利用者の状態に合わせた支援を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士に献立の指導・ボリュームの画像診断を受け、バランス良く一人ひとりの状態に合わせた適切な栄養価の食事を作っている。毎食の食事量と必要な方の水分量のチェックを行っている。</p>	

ケアセンターふれあいの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染予防のマニュアルを作成している。インフルエンザの予防接種は全員行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、まな板・布巾・調理器具を漂白洗浄している。買い物は計画的に行っており、賞味期限切れのものは使用していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に来て頂けるよう花畑にベンチを置き、散歩コースとしている。 段差をなくし、駐車場から最短距離で玄関に来れるような環境を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・匂い・光に気を配り生活感が感じられるように配慮している。歳時記には気を配っており、共有スペースの飾りつけは四季を感じる物を飾っている。		季節感のある作品作りや模様替え等、利用者と共に作り上げていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて思い思いの場所で過ごして頂いている。ウッドデッキや畑など自由に入りが出来る。		

ケアセンターふれあいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使い馴染んだ家具や生活用品を持ち込んで頂いている。 箆笥やベッドの位置も利用者・家族と相談して配置している。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気に注意し、居室・共有スペース共に24時間配慮している。 窓を開けたり、エアコン・床暖房の調整をして対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要各所に手すりを設置している。 段差を無くし、建物内部を自由に行き来できるようにしている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせて目印や、表札を工夫している。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>隣接の畑や花畑、散歩コースを活用し、積極的に外で楽しめる空間を作っている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

ケアセンターふれあいの里

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームで行う日常の楽しみ、余暇活動の他に、隣接のデイサービスやショートステイ・有料老人ホームに遊びに行ったり、合同で行なう体操やクラブ活動に参加していただけます。幅広い選択肢の中から利用者様の希望に応じてご参加いただけます。

グループホームのウッドデッキから出られる畑スペースは、余暇活動の場でもあり収穫の喜びを感じる場でもあります。